



つながる医療

不整脈について②

第二回 不整脈の症状、診断、治療について

日本における不整脈の患者数は年々増加しています。不整脈というと漠然とした不安や恐怖を抱きがちですが、不整脈とは正常でない脈の総称であり、その重症度は種類により大きく異なります。不整脈には特定の治療を行う必要のない種類もある一方で、心不全や脳梗塞、死に至る危険なものもあります。今回は不整脈について、総合大雄会病院循環器内科の寺沢彰浩医師が解説します。

●不整脈になると

どのような症状がでますか？

主な症状は動悸や脈が飛ぶといったものです。また、胸の不快感のみのもあります。他にも心臓が不整脈で脳に十分な血液を送れなくなると失神することもあります。心停止となり命に関わるものもあります。また、不整脈が出ていても全く無症状のこともあります。

●不整脈の診断は

どのようなようになされますか？

不整脈があるのかどうか、あればどんな不整脈なのか診断することが大切です。心電計(体に電極シールを貼って、心臓から発生する電気信号を記録する機械)で心電図を記録することにより診断します。特に動悸など症状がある時に心電図が取れると診断がつきやすいです。しかし、症状がある時に必ずしも心電図が取れるとは限りません。携帯用の小型心電計を1日装着して心電図を記録する方法(ホルター心電図検査)や、小型の心電計を胸部皮下に植え込んで不整脈を検知する方法(植え込み型心電計)非常に小型で植え込んだ後も体の表面から目立たないものです)を症状に合わせて施行し

ます。また、不整脈によっては、カテーテルという細い管を足の付け根や頸部の静脈から心臓内に挿入し、心臓の中から心電図を記録したり、心臓に電気刺激を与えて不整脈を誘発することによって、不整脈を診断する方法(電気生理学的検査)を行うこともあります。症状などによって患者さんに負担の少ない方法を選択し診断します。

不整脈は心臓病(心筋梗塞や心筋症、弁膜症など)をすでに有している人に合併する場合もあれば、明らかでない心臓病のない方に発症することもあります。不整脈の診断において、不整脈の原因となる心臓病の有無も、治療方針決定に重要です。

●不整脈の治療は

どのようなものがありますか？

薬で不整脈の発生を抑える薬物療法、脈が遅くなる不整脈(徐脈性不整脈)に対しては、ペースメーカーという機械を体内に植え込んで脈を補充する方法、特殊なカテーテルを使用して、不整脈の原因となっている部分を心臓内から焼灼し、不整脈が起らないようにする方法(カテーテルアブレーション)などがあります。また、心停止をきたすような脈が異常に速くなる不整脈(心室細

動、心室頻拍)に対しては、不整脈が起った時に電気刺激や電気ショックで不整脈を止める植え込み型除細動器を植え込むことがあります。いずれも不整脈の診断を確定させて最適な治療法を選択します。不整脈をきたす原因となる心臓病がある場合、その心臓病に対する治療も重要です。

不整脈といっても、特に処置、治療を要しないものから命に関わるものまで様々です。気になる症状がある方や不整脈を指摘され不明な点がある方は、かかりつけ医または循環器内科で相談されることをお勧めします。

「不整脈について」は今回が最終回です。次回からは「閉塞性動脈硬化症について」がスタートします。ご期待ください。



監修

総合大雄会病院 副院長

寺沢 彰浩 医師

寺沢 彰浩 医師

〈主な資格〉

- ・日本内科学会 総合内科専門医
- ・日本循環器学会 循環器専門医